

地域連携だより

vol.2

茨城県立中央病院 地域医療連携室
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528
TEL 0296-77-1121
FAX 0296-77-2002
URL:<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/index.html>

陽春の候、貴院におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より、当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
地域連携だよりでは、当院の情報をお知らせいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

●化学療法センターのご紹介



副院長兼化学療法センター長
臨床腫瘍部長

小島 寛

化学療法センタースタッフ

化学療法センターは病床数 23 床の外来化学療法専門施設として平成 20 年 12 月にオープンしました。当院ではエビデンスに則った安全な化学療法を提供することを目的に、外来化学療法は全て当センターで実施しています。外来化学療法件数の増加に伴い施設が手狭になったため、平成 25 年 5 月には 33 床に増床しました。現在、月に延べ約 500 件の化学療法を施行していますが、患者数、ベッド数とも県内最大規模です。

当センターは、採血、診察、薬剤ミキシング、点滴の全てをセンター内でできるよう患者さんの目線で設計された自己完結型の治療施設です。センターには、腫瘍内科および各診療科（消化器内科、呼吸器内科、血液内科、婦人科）医師約 10 名（うち専従 1 名）、看護師 12 名（全員が専従、うち 1 名はがん化学療法看護認定看護師）、薬剤師 6 名（うち専従 1 名が、がん薬物療法認定薬剤師）が勤務しています。多職種の専門スタッフがそれぞれの立場から患者さんに関わりチーム医療を実践しています。

がんの患者さんの場合、それぞれの病期や病状に応じた治療の提供、療養環境の整備が QOL を維持しながら治療を継続する上では極めて重要ですので、外科的治療、放射線治療、そして緩和的治療と切れ目のない医療が提供できるよう心がけています。このために、ソーシャルワーカーや地域医療機関との連携を密にし、患者さんの療養を総合的にサポート出来るような体制を整えています。

化学療法センターに地域の医療機関から直接患者さんを紹介して頂くことはできませんが、各診療科にご紹介いただいた後に主治医が外来化学療法の適応があると判断した場合には、当センターで治療を受けて頂くことになります。今後とも地域医療機関の皆様と連携しつつ質の高い医療が提供できるように心がけていきますので、よろしくお願いいたします。

● 各診療科のご紹介

消化器外科

副院長兼医療局長
消化器外科部長

吉見 富洋

日ごろから地域の先生方には、お世話になり感謝しております。

当科では、現在常勤医師 12 名で診療を担当しています。永井名誉院長も、非常勤になられたとは言え、今でも当科の医療に深くかかわってくださっています。外来は、各々決められた曜日を担当し、さらに入院患者さんに対しては、上記常勤医にさらに初期研修医数名を含めた 15 名前後を 5 チームに分け、その各々のチームが 10 名前後の患者さんの主治医としてお世話をさせていただいております。

救急医療に関しては、前記チームとは別に、日ごとに first call, second call, third call と呼ばれる救急当番制を敷いて、さらには院内他科や、救急センタースタッフとも協力のうえ、緊急手術も含めできるだけ迅速に患者さん方の要望に応えるべく努力しています。

お陰様で手術数は年々増加し、去年 1 年の消化器外科の全手術数は、832 例でした。このうち緊急手術が 238 例をしめ、夜や土日も緊急手術のない日の方が少ないという状況でした。また去年 1 年間に、これら緊急手術例も含め 859 人の患者さんを当科あてに、病診連携室を通して地域の先生方に紹介いただきました。スタッフ一同日ごろから、体力・精神を鍛え、どんなに忙



消化器外科カンファレンス風景

しくとも弱音を吐かず、皆様のお役に立ちたいと思っております。ただ、病院全体の手術数の増加にあわせるべく、近年麻酔科医師、看護師を増員するも、なおその増員が必要性に追いつかず、さらに手術室も手狭になってきているということで、待機手術の待機日数が若干増える傾向なのが今後の憂いであり、吉川院長に相談し具体的対策を練っている状況です。今後も、現在の限られた資源を最大に生かすように、さらに気持ちを引き締めて、皆様のお役に立てるよう精進していきたいと思っておりますので、なお一層ご指導いただきますとたくよろしくお願いいたします。



呼吸器内科

副院長兼地域支援局長
呼吸器内科部長

鍋木 孝之

病院内外の地域医療を担われている皆様には日頃より大変お世話になっております。当院の呼吸器内科診療 4 本の柱を紹介させていただきます。第一は、がん診療です。都道府県がん診療拠点病院として外来化学療法センター、緩和病棟、PETCT 他 充実した画像診断機器を有しております。呼吸器外科、放射線診断治療科、病理検



呼吸器内科スタッフ

査科との連携が綿密に行われており、診療科を越えた適切な治療の選択ができる体制を整備しています。抗癌剤を用いた化学療法に関しては標準治療のみならず、新薬の治験や多施設共同研究に参加し臨床試験を患者さんに御紹介することができます。第二は、感染症治療です。呼吸器病棟では排菌があり感染の可能性のある肺結核患者さんを収容できます。第三は救急診療です。「救急患者さんを断らない」を目標に病院をあげた診療体制が構築されています。重症患者さん合併症のある患者さんも院内連携により診療体制を整えております。第四の柱、診断については呼吸器内視鏡診療の充実を計っております。特に局所麻酔下胸腔鏡、胸膜炎の診断治療に関しては、年間約 50 例 計 630 例を超える検査実績を持ちます。感染性胸膜炎など緊急局所麻酔下胸腔鏡に対応できる数少ない施設です。2014 年度は、地域の医療機関から、663 件御紹介をいただきました。また、御紹介いただいた患者さんを中心に偶数月第 2 水曜日午後 7 時から笠間市医師会館にて、暖かい雰囲気で開催報告会を行っておりますので、皆様ご参加いただければ幸いです。